

## 2021年度図書館専門委員会会議録

- 1 日 時 2021年6月15日（火）午後3時から午後5時まで
- 2 会 場 愛知県図書館 5階 大会議室
- 3 出席者 委員9名（伊藤委員、魚住委員、梶原委員、大道委員、中井委員、福島委員、山本委員、吉村委員、渡辺委員）、館長、副館長、資料支援課長、サービス課長、各グループ課長補佐8名、文化芸術課職員2名、その他県図書館職員（事務局）4名
- 4 傍聴者 1名
- 5 取 材 なし
- 6 発言要旨 以下のとおり

### 【開会】

館長

コロナ禍ということもあり、図書館でも加速度的に電子化が進んでおり、図書館運営においてデジタルとアナログのバランスの取り方が課題となっている。県図書館には多岐にわたる役割があるが、県政のPR拠点、地域コミュニティをつなぐ拠点としての図書館もめざしていきたい。事業の制限をしつつも「新しい生活様式」に対応した図書館活動に取り組んだ結果、2020年度は休館期間があったにもかかわらず、例年の入館者数の6割を超える利用があった。当館は、今年4月に開館30年を迎えた。今後、記念事業として展示や講演会を行う予定である。

本日の図書館専門委員会では、昨年度の事業評価と本年度の事業計画を主な議題とさせていただく。デジタルトランスフォーメーション（DX）、コロナと共存するライフスタイルなど、図書館も大きな転機を迎えている。開館30年という節目でもあり、将来の新たな方向性を見据えて今年度の事業計画を策定したい。それぞれの立場から忌憚のない意見をお願いしたい。

### 【参加者自己紹介】

#### 【議題1 2020年度事業の点検・評価について】

資料に基づき、2020年度事業の点検・評価について説明（副館長）。

梶原委員長

ただいまの報告について御意見、御質問があれば御発言をお願いしたい。

伊藤委員

事業が円滑に行われており嬉しく思う。事業の点検・評価について、資料1・2の別表を見ると、「取組状況」には行ったこと、「理由」には何々ができたと書いて

あるが、どのように考えてその評価をしたのかを教えてください。数値目標については分かりやすいが、それ以外の取組については、行った事実に対して、どう考えて評価したのかを教えてください。

総務課企画グループ課長補佐

実施をしたかどうか、達成状況がどれくらいであるかという点で評価を行っている。満足度については、来館者アンケートでたずねている。

福島委員

学校図書館向け協力貸出について、2020年度は大幅に伸びているが、どのような学校に多く貸出しているのか教えてください。新規の学校が増えたのか、それとも特定の学校が何度も利用しているのか。また、なぜ伸びたのか要因も知りたい。

資料支援課広域グループ課長補佐

県立図書館であるので、高校など県立学校を中心に貸出している。同じ学校が繰り返し利用している例が多いが、新規の利用も増えている。他の学校が利用していることを知り、我が校も利用したいということで利用が始まることもある。調べ学習や修学旅行の事前学習でまとめて借りられる例が多い。学校が工夫して学習活動していることが利用につながっているようだ。

福島委員

学校図書館研究会と県図書館のホームページには、お互いにリンクが張ってある。利用促進につながるとよい。

魚住委員

資料補修研修の実施についてだが、動画については国立国会図書館でも作っているので、内容が重複しないものを作るとよい。県図書館では、身近な材料での補修、簡易な製本、ラミネートシートの貼り方など、簡単な補修方法に関するものを作成して欲しい。

愛蔵くんのチラシを作成していただき感謝している。このチラシをホームページでダウンロードできるのか教えてください。

資料支援課広域グループ課長補佐

愛知図書館協会の資料補修研修の内容を動画で見ただけのようにすることを考えている。今回の御意見を参考に進めていきたい。

総務課企画グループ課長補佐

チラシについては県内図書館にメールで送信している。AICHI.LL ネットでも入手できるようにしている。

中井委員

昨年度はコロナの影響で様々な変化があったと思われる。それを考慮すると、入館者数については2019年度と2020年度の比較だけでは読み取れない。5年くらいで徐々に下がっているのか、コロナの影響のために急に下がったのかななどを、2017年くらいから経年的に見ていく必要がある。

入館者数の目標値を元の数値の60%としたことについて、根拠を教えてください。また、実際の現場における感覚としてはどうなのか。

総務課企画グループ課長補佐

2020年度は、約3か月間の休館や外出自粛の励行、再開館後の入館者の動向といったことを考慮して60%とした。今年度の目標数値も、感染症の影響を踏まえて一部補正している。

サービス課長

入館者の実感としては、ここ1か月は多く感じている。1日1300人から1400人くらい入館している。窓口での状況は2～3年前と変わらない。

中井委員

入館者数については、目標値を達成したか、達成しなかったかだけで評価しなくてもよい。目標値を明確に定めなくてもよいのではないか。過去3年くらいの各月の数と比較することで、何か分かることがあるのではないか。

梶原委員長

2017年や2018年の入館者数について分かる資料はあるか。

総務課企画グループ課長補佐

資料4の30ページに経年変化を載せた統計がある。

梶原委員長

入館者数などの目標値については、設置者側から数字を出して欲しいという要望もあるので、数値を挙げざるを得ないということもある。

山本委員

資料1・2の別表、2ページの「地域の課題解決に役立つ図書館サービスの提供と拡充」を見ると「ビジネス支援を拡充し、行政支援などのサービスに取り組みます」とあり、ここは支援について評価をする部分だと考える。行政支援サービスでは「県図書だより」を年間2回以上刊行した、ビジネス支援サービスでは展示をしたという理由でA評価となっている。これらを見ると、図書館が情報提供をすると

いうことで評価をしているようだが、支援について評価をするならば、実際にどのような人が活用して、行政支援は何件、ビジネス支援主体の相談は何件といったことに目を向けてはどうか。一般行政からの相談はあるのかないのか。また、ビジネス支援のレファレンスがあるのかないのかをお聞きしたい。図書館での支援はレファレンスであり、そこに専門性が発揮されているのではないかと感じているのでお訊ねしたい。

#### サービス課児童・AV・障害グループ課長補佐

行政支援やビジネス支援の相談について、実際受けてはいると思うが、相談者の見た目では判別できないし、趣味と思われる質問も結果としてビジネスに結びつく場合があるようなので、カウントが難しいところである。

#### 総務課企画グループ課長補佐

行政サービスのカウントは難しいが、県の事業と図書館の資料を抱き合わせて紹介できるような広報を、県職員向けに行っていきたい。

#### 吉村委員

学校図書館向け支援について、県図書館の本と市立図書館の本を合わせて貸出する例もある。相乗効果が出ているように思う。

主要紙への評価について、県図書館は多く新聞に取り上げられている。県図書館では記事提供をしているのか、新聞社の方から取材したいという連絡があるのか教えて欲しい。

#### 総務課企画グループ課長補佐

記者発表することもある。取材をされた時に他の展示などを目にされ、次の取材につながることもある。

#### 大道委員

学校への貸出について、立ち上げの際は県図書館に多くの御協力をいただいた。当時、市町村立図書館の意向調査をされたと思うが、再度調査をする予定はあるか。また、学校司書の中には、破損が心配で借りることに躊躇している方もいるが、その心配の声は届いているのか。それについて対策はあるのか教えて欲しい。

#### 資料支援課広域グループ課長補佐

今のところ破損や紛失はないので、あまり心配せず、図書館の本を大切に使うことも含めて学習に利用して欲しい。調査については、全体に行くことは考えていないが、各学校に個別にお訊ねすることはある。協力貸出について、とても頻繁に利用している学校もあるが、利用していない学校もあるので今後対象を広げていきたい。

渡辺委員

主要紙の評価基準を見直していただき感謝している。今後も見直しはしていただきたい。中日新聞の長野版に掲載された記事があるが、この記事を見つける際にデータベースなどを利用されたのか、どのように見つけたのか教えて欲しい。

サービス課人文・地域グループ課長補佐

長野の記者から、県図書館の所蔵資料の写真を使いたいとの問い合わせがあり、資料を提供した。その後、掲載の連絡があった。

梶原委員長

他に意見がなければ議題1については了承でよろしいか。

【了承】

【議題2 2021年度の事業計画について】

資料に基づき、2021年度の事業計画について説明（副館長）。

伊藤委員

数値目標などに異論はない。資料2の事業計画の中で重点的に取り組む事項の「③『新しい生活様式』に対応した図書館サービスの充実」について希望がある。非来館の体制として、近隣図書館を通して返却したい。三河や知多ではできるが、名古屋市内でもそういうシステムがあると大変ありがたい。

資料支援課広域グループ課長補佐

遠隔地返却制度については、できるだけ拡大したい。尾張地区については、今のところ見通しが立っていない。名古屋市図書館での返却は量も多く、すぐには実現できない。

中井委員

電子書籍サービスは視覚障害者にも役立つ。例として岐阜市がある。音声で読めるので、そうしたサービスも随時やっていただきたい。

滋賀県長浜市の図書館でアンケート調査を行ったのだが、来館者数がコロナ前後で変わらなかった。今まで使っていたけど使わなかった人が、また使うようになった例が目立った。コロナの影響だと思われるが、学生層が減っていた。

県図書館の入館者数が2019年度に55万人に近づいた要因として、Yottekoを利用する学生が増えたのではないか。しかし、コロナで学生層が減り、コンスタントに利用していた人が来なくなるといったことがあるのではないか。入館者数をキープするためには、どういう人たちが来て、どんな人が減ったのかを把握するとよい。このようなことについて、何か感じることはないか。

資料支援課資料グループ課長補佐

1月に電子書籍を導入したが、今でも利用は多い。紙を含めた資料費の中から

電子書籍にどう割り振るかが問題である。視覚障害者の方の利用についてだが、KinoDenは視覚障害者の方の使い勝手はよくないようで、提供先と改良のための協議を重ねている。

総務課企画グループ課長補佐

大きく減ったのは年配の方だという感覚である。高校生はやってくる。2019年度の上昇はYottekoと学習室開放のためかと思う。今年の4・5月の入館者は2019年度の約70%である。

山本委員

電子書籍を利用する人は、来館頻度は少ないが電子書籍なら利用しようという人々だと想像できる。そうすると、入館者数で評価することが適しているのかということにも関連してくる。

電子書籍の利用が増えることは、閲覧者数が増えたということでもあるので、入館者数と並ぶ目標として評価することはできないか。これまで利用していなかった人の利用が電子書籍でどれだけ増えたのかなどを調査して、予算要求に活用してはどうか。そこを見越して事業計画されていくと良いのではないか。

資料支援課資料グループ課長補佐

電子書籍については導入している図書館も増えており、今後、県立図書館と市町村立図書館の住み分け、また、紙資料と電子書籍の住み分けを考える必要がある。

梶原委員長

電子書籍を利用している人が、今まで図書館を利用していた人か、利用していなかった人かを知ることができるのか。

資料支援課資料グループ課長補佐

図書館として電子書籍関係で分かるデータは、どの本に何回アクセスがあったかに限られる。電子書籍導入の後に、利用カードを作る人が増えていること、郵送での利用カード登録も増えていることから、新たな利用者層を見ることはできるかもしれない。

山本委員

電子書籍ユーザーはITリテラシーがあるので、メールやグーグルフォームを使用してアンケートなどできないか。行政では難しいかもしれないが、使っている人の声をターゲットにして、意見を集めることもできるのではないか。

資料支援課資料グループ課長補佐

電子書籍の使い方よりも、電子書籍を使うまでの手順の問い合わせが多い。ITリテラシーがあまりない方も含めて、かなり幅広い層が利用していると思われる。アンケートについては、考える余地がある。

サービス課児童・AV・障害グループ課長補佐

郵送での利用カード申込は、例年、年間30件ほどだったが、電子書籍サービス開始の1月26日から5月末までで約850件あった。申込者は名古屋市外が4分の3で、東三河も多い。来館せず利用できる電子書籍サービスは、広く県民の方に期待されていると思われる。

伊藤委員

電子書籍の利用については、知らないことが大きなネックとなる。スマホを使っている、電子書籍に触れていないこともある。YouTubeに電子書籍の使い方を載せてはどうか。

今年度以降のことだが、DXについては是非進めていただきたい。また、県図書館ならではの実験的なことをしていただきたいと強く思っている。高校生など、若い世代が図書館に来るきっかけ作りとなるような場の提供、この図書館を使って、ものづくりなど創造的な活動ができるような場の提供といった、県内の他図書館のモデルになることを実験的に行えるとよいと思っている。予算が必要になることも多いので、今年度以降、次年度、次々年度に向けて、検討していただきたい。それをするには職員の知識もなくてはならないので、今年度は準備期間としてとらえればよいのではないか。魅力的な図書館へと長いスパンで発展させることを期待している。

梶原委員長

事業計画の中で重点的に取り組む事項「③『新しい生活様式』に対応した図書館サービスの充実」については修正いただきたい。アンケートの検討といった内容で考えていただきたい。

資料支援課資料グループ課長補佐

電子書籍の使い方については事業者と相談している。

総務課企画グループ課長補佐

アンケートの実施については、考えていきたいと思う。

梶原委員長

検討をどうぞよろしくお願ひしたい。議題2については事務局に変更させ、各委員に諮り修正し、細部は委員長に一任させていただくことでよろしいか。

【了承】

【報告事項1 愛知県図書館開館30周年記念事業の実施について】

資料に基づき、愛知県図書館開館30周年記念事業の実施について説明（サービス課長）。

【報告事項2 愛知県図書館と東三河地域の市町村及び観光団体との地域振興に係る情報発信の連携・協力に関する協定について】

資料に基づき、愛知県図書館と東三河地域の市町村及び観光団体との地域振興に係る情報発信の連携・協力に関する協定について説明（資料支援課長）。

梶原委員長

最後にその他に移らせていただく。委員の皆様には本日の議題以外の事でも構わないので、何か御意見があればお願いしたい。

【なし】

梶原委員長

今日は、多くの御意見ありがとうございました。皆様からの御協力により無事終了できたことに感謝を申し上げます。

館長

皆様からいただいた貴重な御意見は、今後の当館の運営に反映させて参りたい。今後もお気づきの点があれば御意見をいただきたい。

【閉会】